

新しいデイサービス「カフェテリアプラン」

画一的から選択制に転換

四月に施行された新介護保険法では、比較的軽度な「要支援1、2」の認定者に運動や栄養指導などを促して、症状の悪化を防ぐなど、「介護予防」を重視した姿勢が大きく転換した。その中で、元来、画一的で受け身のサービスだったデイサービスの分野でも、利用者が多様なメニューの中から自らやりたいことを選んで実行し、自立した生活につなげる「通所介護カフェテリアプラン」の取り組みがスタートしている。同プランを導入する宮津市の福祉施設を訪ね、新しいデイサービスの形を探った。(宮津支局 後藤創平)

栗田半島の付け根に位組めば汗をかきそうなる。置する宮津市獅子の特別シムもある。養護老人ホーム「天橋の郷」。吹き抜けのホール。戦っていた山下敏郎さんには、自転車型のトレイ(穴)同市中津は「誰ニンゲマシンやダーツ、でも得手不得手があるのバランスボールなど、多くで、自分がやりたいメニューの運動器具やゲームがユーを選べるのは魅力。並ぶ。テレビ画面と運動 ついで夢中になり、いつの間にか次のレベルを目指したボウリングゲームも、間にか次のレベルを目指している」と、向上心もあり、実際に球を投げて「かき立てられる」という。遊び気分でも楽しむ。カフェテリアプランで器具のほか、全力で取りは、小グループに分かれ

介護予防につながるか



テレビ画面と運動したボウリングゲームを楽しむ施設利用者。介護予防につながると、関係者の期待も高い(宮津市獅子・特別養護老人ホーム「天橋の郷」)

自主的 尊厳保てる

度に由来するとされる。は「介護予防を進めるに京都府は昨年度、介護は、高齢者のやる気が何より大切。人生経験の豊富な人はかなりなので、ユーから自分たちが望む要とし、「通所介護カフェテリアプラン」のモデルとするプランの趣旨は、人ともとは、企業の従業員、ル事業を府内三カ所所で実施した。天橋の郷もそのも重要」と説明する。設を自由に選択できる制一つ。北條千恵子施設長、同プランのもう一つの

特徴は、地域の高齢者がボランティアとして活動に参加する点にある。一緒に機能回復などを図ることで、参加者自身の健康を維持できるメリットがある。また、いずれ高齢者となる「団塊世代」も視野に入れ、ボランティア活動を同世代の生きがいづくりの受け皿とする狙いもある。ボランティアに登録している池田定子さん(左)「官村」は「もともと運動好きなこともあり、自分が一番楽しんで」と話し、利用者には何かをしてあげていく感覚はないという。

利用者尊重 職員の意識不可欠

府などによると、同プランを取り入れている福祉施設は依然少なく、デイサービスを行う多くの施設では、従来通りの画一的な内容が多いという。北條施設長は「カフェテリアプランの成功は、ただ単に利用者が選択できるよすれば良いわけではない。サポートする職員すべてが、(画一的にならないよう)利用者一人一人に向き合い、相手を尊重する意識を持たないといけない」と指摘する。高齢化が進み、介護保険財政が苦しくなる中、介護予防を推進する流れは止まらないだろう。同プランが、自立を望む高齢者にとって有効な手段の一つになり得るか、注目したい。

タイムリー
06
レポート